

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒個々の「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。

- 1 生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を推進し、「確かな学力」を育成する。
- 2 キャリア教育の充実に努めるとともに、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 3 教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業力の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。
 - ア アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。
 - イ 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業力の向上に取り組む。
 - ウ 国際交流事業、英語検定等を活用し、国際理解教育を推進する。

※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成 27 年度 79%)を上昇させ、平成 30 年度には 85%以上にする。

(2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。

ア 学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。

2 進路意識の高揚とコース制の充実

(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実に努め、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。

ア 総合的な学習の時間(ライフ・プランニング=L P)、LHR(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実に努める。

※ 進路決定率(平成 27 年度 89%)を上昇させ、平成 30 年度には 95%以上にする。

※ 学校紹介就職内定率は 100%(平成 27 年度 100%)を維持する。

(2) 「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。

ア コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実に努め、進路実現につなげる。

イ コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。

3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成

(1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。

ア 規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。

イ L P、LHRにおいて、人権学習を計画的に実施し、人権意識の高揚を図る。

ウ 「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。

エ 防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。

※ 遅刻について、前年度比 10%の減少を図る。

(2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を醸成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。

ア 学校行事、生徒会活動の活性化を図る。

イ 部活動の活性化を図る。

ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実に努める。

※ 部活動加入率(平成 27 年度 56%)を上昇させ、平成 30 年度には 62%以上にする。

4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上

(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。

ア 中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。

イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。

(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」「ICTを活用した授業」の増加、「生徒の主体的な授業参加」に向けて、研修、実践、振り返り、観点別評価等についての教科別協議等を行った結果、生徒の回答では、課題提出 83.0%(H27・82.0%)、ICTを活用した授業 83.0%(H27・83.4%)で昨年同様であった。 ・教員の回答では、学習指導等の協議 77.6%(H27・76.2%)、教科指導の工夫 93.8%(H27・88.1%)、学習形態の工夫 93.9%(H27・90.5%)と肯定的回答が上昇した。 ・今後は、取組みの継続・発展と共に、授業規律についての肯定的回答、生徒 53.5%(H27・50.3%)、教員 59.2%(H27・52.4%)等についても改善していく。 <p>【進路意識の高揚】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統的キャリア教育の推進のため、キャリアガイドブックの一新、各学年別進路ニュースの発行等を行い、進路や職業について学ぶ機会(生徒)は 79.3%(H27・78.5%)、進路指導満足度(保護者)は 76.8%(H27・71.0%)でいずれも上昇した。 ・教員の回答では、きめ細かな進路指導 81.6%(H27・73.8%)、望ましい勤労観職業観が持てる系統的キャリア教育 69.4%(H27・59.5%)と顕著に上昇した。 ・今後も系統的キャリア教育の推進のため、取組みの継続、見直し、発展を行う。 <p>【安全で安心な学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の回答では学校に行くのが楽しい 71.8%(H27・74.2%)、学校は生活規律等の指導に尽力 78.2%(H27・79.5%)は下降したが、保護者の子どもは学校へ行くのを楽しみに 77.0%(H27・73.6%)、生徒指導方針に共感 78.2%(H27・72.1%)は上昇。 ・人権の大切さを学ぶ機会がある(生徒)は、83.5%(H27・77.2%)に上昇。保護者の人権教育満足度も 87.8%(H27・69.9%)と顕著に上昇した。 ・学校行事満足度は、生徒 70.1%(H27・69.7%)、保護者 85.1%(H27・78.1%)と上昇。 ・今後も組織的な生徒指導、学校教育全般を通じた規範意識、人権意識、自尊感情の醸成と相談活動の充実に努め、安全で安心な学校生活となるよう推進していく。 <p>【学校力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の回答では、教育活動について日常的に話し合っている 81.3%(H27・76.2%)、生徒の問題行動に対応する組織体制が確立 93.9%(H27・92.9%)、体罰・いじめのない人権尊重の姿勢に基づく生徒指導の実施 89.8%(H27・85.7%)といずれも上昇した。経験の少ない教職員へのフォロー体制 63.3%(H27・64.2%)は下降。 ・P T A活動への参加(教職員)は、55.1%(H27・52.4%)は年々上昇傾向にある。 ・学校は相談に丁寧に対応してくれる(保護者)も 84.5%(H27・78.7%)に上昇。 ・今後も、教育の見える化、広報活動の推進、保護者や地域との連携推進を行うと共に、計画的な教員研修を実施して、教育活動の活性化と学校力の向上を図っていく。 	<p>【第 1 回 5 月 27 日】「平成 28 年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観から、先生方がよく努力され、生徒を授業に集中させようとしているのが伝わってくる。生徒同士が相談し合えるいい雰囲気の中で、集団づくり、仲間づくりができていたと思った。これも、アクティブ・ラーニングの成果ではないか。 ・アクティブ・ラーニングが自然にできているのも阿武野の力。どんどん生徒のよいところを見つけて生徒を褒め、自信を持たせることが大切。 ・学校経営計画では、遅刻指導や挨拶指導について大標など大切なことであり、評価している。挨拶については家庭の責任でもあり、保護者の意識の向上も必要と考えている。 ・自転車指導では、カッパ着用と共に、イヤホンの禁止についても力を入れてほしい。 ・生徒指導について、先生方がぶれずに、共通理解を持ってやっているのがいい。 ・地域へは、多くの生徒さんにボランティアに出てもらっている。阿武野高校生を地域に知ってもらうことで評価も上がる。今後もよろしくお願ひしたい。 ・「3年間の学び・見えるプラン」は、生徒がノートや家の机に貼るなどして、いつでも見られるように活用できたらいい。各イベントの目標などを生徒も教員も共有でき、しっかりと見直しを持ってようになるから、とても良いと思う。 <p>【第 2 回 10 月 14 日】「学校経営計画進捗状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿武野の授業は、生徒の主体的な授業参加と活動量の増加に向けてしっかり取り組んでいる。大学入試も変わる中で、「自ら考える力」を養う必要がある。 ・福祉実習や研修講座が高校と地域で連携して行っていることが本当に素晴らしい。 ・阿武野の生徒と教員の関係は良好である。毅然とした対応により生徒は成長している。 ・様々な取組みから生徒への愛情、思い入れが伺える。自立支援コースでの進路指導も的確。保護者と教員も良好な関係を築けており、今後も支えあい学校を作っていきたい。 ・学校紹介リーフレットも見えるプランもとても見やすくわかりやすい。学校紹介の動画・スライドも阿武野の良さや楽しさが伝わる。修学旅行でのマラソンも素晴らしい。 ・「見える化」が重要だと感じた。阿武野高校では、教員、生徒、保護者、地域が情報を共有できる工夫が多くみられる。 <p>【第 3 回 2 月 8 日】「学校経営計画達成状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価は難しいが、知識理解だけではなく生徒の力を多角的に見て評価し、考える力を育てていく必要がある。指導と評価の一体化を考えることが重要である。 ・「傘さし運転禁止・カッパ着用」を指導するのは難しいと思っていたが、定着しつつあると聞いて驚いている。地域でも、雨の日に傘をさして自転車に乗っている高校生をほとんど見ない。素直な生徒が多い印象である。 ・職員研修「ピア・メディエーションにおけるリフレーミング技法」を活用して、1・2年生が生徒同士で「褒める」「見方を変える」ことについて学んだのはいい実践だ。 ・修学旅行でのハーフマラソンで完走した生徒の「やり遂げた」という表情がよかった。 ・授業だけでなく、行事等を通して達成感を得られる取組みをしている。その達成感が自分の自信になり自己肯定感の育成につながって、良いサイクルができていく。 ・全体的に各項目を細かく分析していて、目標に向かって努力していることがよくわかった。地域連携・交流も多く、この地域になくてはならない学校になっている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業力の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。 (2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。	(1) ア・対話型、発表型の授業を行う等、アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の主体的な授業参加と活動量の増加を図る。 ・各授業の目標、ポイントを明示するとともに、授業の振り返りを行う。 ・課題・宿題による家庭学習の習慣づけ、確認を行い、授業進行に活用する。 ・ICTを活用した授業づくりを推進する。 イ・教員相互の授業見学、研究授業、他校の授業見学を活性化すると共に、授業アンケート結果を活用し、授業の質の向上を図る。 ウ・国際交流事業(ケント高との相互交換留学)や英検受験を通じて英語力と国際感覚を養う。 (2) ア・学習環境整備、授業準備、授業規律について、学校全体で統一した指導を行う。	(1) ア・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度 79%→81%。 ・ICTを使用した授業が多い 83%→85%。 イ・教員相互の授業見学、研究授業、他校の授業見学の参加者延べ 250人以上。 ウ・国際交流事業の活性化。 (2) ア・クラス清掃をきちんとする 62%→64%。 ・私語が少なくしっかり授業を聞く 50→52%。	(1)ア・「わかる授業」「ICTを活用した授業」の増加、「生徒の主体的な授業参加」に向け、研修、実践、振り返り、観点別評価等についての教科別協議等を行った結果、授業アンケートの興味関心、知識技能に係る満足度は 79%、ICT を活用した授業が多い(学校教育自己診断・生徒)は 83%で昨年同様であった。ICT を活用した授業は年間 2500 時間(H27・2000 時間)で増加した。(○) イ・学校教育自己診断・教員の回答は教科指導の工夫 93.8%(H27・88.1%)、学習形態の工夫 93.9%(H27・90.5%)と肯定的回答が上昇した。教員相互・他校の授業見学等の参加者 280 人。(○) ウ・7月にアメリカワシントン州ケント高校から生徒 4 名教員 1 名を受け入れ、3月には本校生徒 4 名、教員 1 名を派遣。英検受験者は 29 名(H27・23 名)。(○) (2)ア・各学年での学習環境整備、授業規律指導を強化し、学校教育自己診断・生徒、クラス清掃に係る肯定的回答は 69.7%。(○) ・授業規律に係る肯定的回答は 53.5%であった。(○)
2 進路意識の高揚とコース制の充実	(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。 (2) 各コースをはじめすべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。	(1) ア・3年間で、LP、LHRにおける系統的・継続的なキャリア教育が充実するよう、進路指導部、学年が協力する。 ・1年次は自尊感情の育成とともに、LP「素敵な大人インタビュー」等を通して将来の職業生活についての意識を高める。全員の3者面談を実施し、進路決定や職業を意識したコース選択、科目選択を徹底する。 ・2年次は進路体験学習等のキャリア教育、個人面談により、適切な科目選択、卒業後の進路目標の確定に導く。 ・3年次は進路別対策講座を実施するとともに、担任・進路によるきめ細かな進路相談を行い、進路希望実現 100%をめざす。 (2) ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。	(1) ア・LP、LHRにおける3年間の系統的なキャリア教育の見直し。 ・2年生の進路目標確定 95%以上。 ・卒業時進路決定率 89%→91%。 ・学校紹介就職内定率 100%。 ・進路指導部による進路相談 200 回以上。 ・卒業時進路満足度 89%→91% (2) アイ・専門コース等における地域交流・連携 10 回以上。	(1)・系統的キャリア教育の推進のため、キャリアガイドブックの一新、各学年別進路ニュースの発行、「3年間の学び・みえるプラン」の作成、周知を行った。進路や職業について学ぶ機会がある(学校教育自己診断・生徒)は 79.3%(H27・78.5%)、保護者の進路指導満足度は 76.8%(H27・71.0%)に上昇。(○) ・1年生は、素敵な大人インタビュー、キャリア教育講演会等、進路意識向上のための新たな取り組みを実施。(○) ・2年生は、一般企業の代表取締役によるキャリア教育講演会、キャンパス見学会を新たに実施し、2月に全員が進路目標を確定するよう継続指導。(○) ・3年生は、進路別対策講座(教材の工夫・少人数)、進路ガイダンス等を実施し、進路決定率 91%(一般入試をめざす人数が増加)、就職内定率 100%。(○) ・進路指導部による進路相談は2学期末まで 244 回。今年度新たに自習室の整備、年 3 回の基礎学力調査(1・2年)、公務員対策講座を実施した。(○) (2)アイ・スポーツ専門コースでは、体育祭での集団行動、小学校ボランティア実習、スキー・スノーボード実習を実施すると共に、高槻シティーハーフマラソンに参加、大会運営に協力。(○) ・福祉・保育専門コースでは、文化祭での高槻支援学校と合同の手話コーラス、地域の幼稚園、保育園、福祉施設、支援学校との交流等を実施。(○) ・授業での地域交流・連携は、60 回以上。(○)
3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成	(1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。 (2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を醸成すると共に、自らを律し他人を思いやる心を育てる。	(1) ア・全教職員による登校時校門指導を行い、遅刻、頭髪、制服の指導を強化するとともに、挨拶ができる生徒を育てる。 ・生徒一人ひとりが「阿武野高生の代表」であるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・カウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。 イ・1年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、LP、LHRで人権学習を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。 ウ・2年次に社会貢献活動「あぶねっ」とを行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情を育てる。 エ・防災教育、自転車指導を計画的に行う。 (2) ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。 イ・部活動の活性化を図る。 ウ・各学年、相談室委員会、配慮特別委員会が情報を共有し、SC(スクールカウンセラー)、関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を確立する。	(1) ア・年間延べ遅刻数 4500 人以下。(H27・4764 人) イ・人権の大切さを学ぶ機会 77%→80%。 ウ・学校へ行くのが楽しい 74%→77%。 エ・安全教育の各学期実施。 (2) ア・学校行事満足度 70%→73%。 イ・部活動加入率 56%→58%。 ・生徒会や部活動による地域交流 10 回以上。 ウ・「個別的教育支援計画」の作成と適切な支援。	(1)ア・登校時校門指導、年間 4 回の生徒指導週間、遅刻が多い生徒への保護者との連携した指導を実施したが、遅刻者数は 4747 名。(△) ・全教職員による一貫した生徒指導を推進し、学校教育自己診断・保護者の「生徒指導方針に共感」は 78.2%(H27・72.1%)に上昇、同・生徒の「生活規律等の指導に尽力」は 78.2%(H27・79.5%)だった。(○) イウ・人権学習講演会、障がい理解学習、あぶねっ等の実施により「人権の大切さを学ぶ機会がある」(生徒)は、83.5%(H27・77.2%)に上昇。(○) ・「学校へ行くのが楽しい」(生徒)は 71.8%(H27・74.2%)に下降(△)。保護者の「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」は 77.0%(H27・73.6%)と上昇した。今後も、学校教育全般を通じた規範意識、人権意識、自尊感情の醸成を図っていく。 エ・警察署員による交通安全教室、終業式等での講話、生徒指導日より等で自転車指導を実施。雨天時の傘さし運転禁止、カップ着用は定着した。(○) ・5月火災想定避難訓練、9月大阪 880 万人避難訓練(机上訓練)、1月自助共助防災HRを実施。(○) (2)ア・学校行事満足度(生徒)は 70.1%(H27・69.7%)。(○) イ・部活動加入率は 55.2%。学年別では、1年 63.2%、2年 45.6%、3年 56.8%で2年生で下降。(△) ・地域の夏祭り・文化祭、グリーンキャンペーンや高槻シティーマラソンに協力等、生徒会や部活動による地域交流は 30 回以上で活性化を図ることができた。(○) ウ・個別的教育支援計画は 14 名について作成。今後も多面的な理解と支援の在り方を共有し、スクールカウンセラー、外部機関との連携を深めていく。(○)
4 地域の信頼感を高め、学校生活の向上	(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。 (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。	(1) ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・学校紹介スライド・パンフレット、ポスター、専門コース・クラブ紹介リーフレット等を作成し、教育活動の効果的な情報発信に努める。 ・文書、保護者メール、HP(ホームページ)等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。 (2) ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センター等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。 ・職員研修を計画的に実施する。	(1) ア・学校説明会等の計画的、組織的実施 6 回以上。 イ・HPを H28 年度用に 1 学期中に改訂。 ・保護者の教育情報提供満足度 74%→77%。 (2) ・伝達研修の職員会議での実施 10 回以上。	(1)ア・学校説明会は校外 2 回、校内 6 回、オープンスクール 1 回実施。自立支援コース説明会は校外 1 回、校内 2 回実施。自立支援コースでは個別相談多数。実施時期、方法等検討し、組織的に実施できた。(○) イ・学校紹介スライド、動画、リーフレットは、学校協議会での意見も参考に一新。「3年間の学び・みえるプラン」を新たに作成し、生徒、保護者、地域向けに配布。3年間の学びを進路学習、人権教育、学校生活に分けて B4 版にまとめ、各々「めあて」を明記することで、教職員の意識統一、生徒・保護者の理解につながり、学校教育自己診断・保護者が全質問項目で上昇。(学校行事満足度 85.1%(H27・78.1%)人権教育満足度 87.8%(H27・69.9%)等) (○) ・ホームページを 1 学期に改訂すると共に、各行事等の記事の掲載について教職員の協力的体制整備。(○) ・文書、保護者メールによる保護者との連絡は、学年毎のメールマガジン(年間約 20 回)、学習の状況、生徒指導等に関する文書通知を実施し、保護者の情報提供満足度は 75.8%(H27・74.2%)、相談に丁寧に対応してくれる 84.5%(H27・78.7%)。(○) (2)・伝達研修は 10 回以上実施予定。(○) ・職員研修は 5 月「学校における合理的配慮について」、10 月「ピアメディエーションにおけるリフレーミングの技法」を実施した。(○)